

1. 科目名（単位 数）	異文化理解（2 単位）	3. 科目番号	EDEN3331
2. 授業担当教員	坂井 二郎		
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	教育学部 3, 4 年次学生対象		
7. 講義概要	国際社会や世界との関わりの中で、他者と効果的なコミュニケーションを行う力を育成するために、コミュニケーションの手段としての外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学んでいく。また、さまざまな英語圏の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に必要な知見を身に付けていく。 本講義における学習事項としては、1. 異文化コミュニケーションの現状・課題と基礎概念、2. 異文化交流の体験過程と文化多様性の意義、3. 英語文化圏の歴史・社会・文化、以上3点を適宜扱うものとする。		
8. 学習目標	1. 世界の文化の多様性及異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。 2. 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。 3. 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。		
9. アサシメント （宿題）及びレポ ート課題	提出課題は毎回の授業内容に関し概要をまとめ用紙に記載し提出する。なお課題は毎回授業内に提出し各自に口頭発表してもらう。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 池田理知子 編著『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房、2010。 【参考書】 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。 その他文献は講義内で適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 世界の文化の多様性及異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できるようになったか。 2. 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解できるようになったか。 3. 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解できるようになったか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1. 授業への参加態度 総合点の 30% 2. 試験（小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等） 総合点の 30% 3. 提出課題（レポート等） 総合点の 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生への メッセージ	1. わからないことはそのままにせず、質問してください。 2. グループワークをしますので積極的に発言し参加してください。 3. 辞書は必要に応じ適宜使用してください。 4. 意見がある場合は積極的に発信してください。 5. 私語や携帯の不必要な使用は減点対象とします。		
13. オフィスアワー	初回授業時に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	異文化コミュニケーションの現状と課題 グローバル社会における異文化コミュニケーションの現状と課題について考える。特に、世界の言語・文化の多様性及自国内外の言語・文化の多様性の現状と私たちの生活に与える影響や課題について考えを深める。	事前学習	シラバスを確認し、教科書や扱うテーマ内容について把握しておく。
		事後学習	授業の進め方や異文化コミュニケーションの現状と課題について振り返っておく。
第 2 回	異文化交流の変遷と意義（Ⅰグローバル社会と異文化コミュニケーション） グローバル化の影響に留意しながら異文化交流の変遷について理解する。また、身近に存在している多様な文化背景を持つ外国人との異文化接触の体験を振り返ることで異文化交流の意義について考える。特に、クラス内外の文化背景を持つ交換留学生、学部留学生とペアとなり実際に異文化交流の機会を持ち、その体験から課題と意義について考えを深める。	事前学習	教科書 pp.2～11 を読み、日常的に経験している自身の異文化体験について振り返っておく。
		事後学習	既習内容を復習する。実際に体験した異文化交流についてノートに記録し課題と意義について自分なりに考えをまとめておく。
第 3 回	「文化」の概念と多様性（Ⅱ文化） 文化は色々な側面を持ち、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしている。「文化」をより身近なものとして捉え、自分自身と文化の関係を理解する。	事前学習	教科書 pp. 12～25 を読み、文化とはなにかについて自分なりに考えておく。
		事後学習	既習内容を復習し、文化についての理解を深めておく。
第 4 回	コミュニケーション能力と多様な文化的背景（Ⅲコミュニケーション） 異文化交流で必要とされる能力について、多様な文化背景を持つ周囲との交流状況や自身の異文化体験と関連付けながら理解を深める。また、多様な文化背景を持つクラス内外の交換留学生や学部留学生とペアになり実際に異文化交流の機会を持つことで異文化交流に必要なコミュニケーション能力について考えを深める。	事前学習	教科書 pp. 26～37 を読み、コミュニケーション能力について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習する。実際に体験した異文化交流体験を振り返り異文化交流で必要なコミュニケーション能力について自分なりに考えをまとめておく。
第 5 回	リンガフランカとしての英語（Ⅳ言語 1-7） 国際社会における共通語としての英語の影響について理解する。特に英語の持つ政治的力や経済的力について考える。	事前学習	教科書 pp. 38～51 を読み、国際社会における英語の影響について自分なりに考えておく。
		事後学習	既習内容を復習し、英語を学ぶ意義について確認しておく。

第 6 回	英語が使われている国や地域：多言語主義（IV 言語 8-14） 権力が支配のために言語・文化を利用してきたのと同時に、民衆も言語・文化を使って支配に抵抗をしてきた。特に英語が使われている国や地域の多言語主義の意義・意味を確認し、自分自身の言語についても振り返る。	事前学習	教科書 pp. 52～65 を読み、言語と文化や社会との関係について把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、言語の役割について整理しておく。
第 7 回	異文化コミュニケーションにおける非言語の役割（V 非言語） 異文化コミュニケーションにおける非言語の種類や特徴について考察する。	事前学習	教科書 pp. 66～77 を読み、“非”言語とはなにか把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、非言語の特徴について確認しておく。
第 8 回	第 1 回から第 7 回までの振り返り：異文化コミュニケーションの様々な現状と課題を考察する。まとめテスト 1	事前学習	第 1 回から第 7 回までの授業内容を振り返っておく。
		事後学習	各回の重要ポイントについて考えたことや授業で話し合った内容をノートにまとめておく。
第 9 回	異文化交流の影響：カルチャーショックと異文化適応（VII 異文化接触 1-6） 身近に存在する異文化と日常生活で起こり得るカルチャーショックを自身の経験に依拠し関連付けながら、新たなものとの出会いや異文化接触の意義について理解を深める。また、クラス内外の交換留学生や学部留学生と彼らが日本で経験したカルチャーショックや異文化適応について異文化交流を兼ねたペアワークやグループ討議を実施することで考えを深める。	事前学習	教科書 pp. 98～109 を読み、自身のカルチャーショック体験があれば振り返っておく。
		事後学習	既習内容を復習する。実際に体験した異文化交流体験からカルチャーショックや異文化適応について考えをまとめておく。
第 10 回	異文化交流の影響：異文化接触と摩擦（VII 異文化接触 7-11） 多様な文化背景を持つ周囲や他者との日常的な異文化交流の関係から文化や自己を改めて見つめ、自身の多様な文化アイデンティティについて体験に依拠しながら確認しておく。また、クラス内外の交換留学生や学部留学生と異文化摩擦と多文化アイデンティティの関係について異文化交流を兼ねたペアワークやグループ討議を実施し考えを深める。	事前学習	教科書 pp. 110～119 を読み、文化が異なるとはどのようなことか改めて考えておく。
		事後学習	既習内容を復習する。実際に体験した異文化交流体験から異文化摩擦や自身の多様なアイデンティティについて考えをまとめておく。
第 11 回	異文化交流の影響：多様なコミュニケーション・ツールとその社会的影響（VIII 異空間としてのメディア） 身近なコミュニケーション・ツールを通じた異文化交流やその影響について、自身の使い方や日常における実際の交流状況と照らし合わせながら確認する。またクラス内外の交換留学生や学部留学生とペアになりメールやラインをはじめとする多様なメディアでの異文化交流を体験し、コミュニケーションメディアの影響や課題について考えを深める。	事前学習	教科書 pp. 120～139 を読み、コミュニケーション・ツールにはどのようなものがあるか把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習する。実際に体験した多様なメディアでの異文化交流からコミュニケーションメディアの社会的影響力や課題について考えをまとめておく。
第 12 回	英語が使われている国や地域：メディア（IX メディアと文化） メディアも政治的・経済的支配と無関係ではない。社会の力関係とメディアの役割を確認し、情報を批判的に読み取ることを意識する。例えば様々な SNS を通して英語で情報を入手したり、クラス内外の多様な文化背景を持つ留学生と実際に SNS で英語を使用した異文化交流を体験し、情報の妥当性やメディアを通しての交流体験の課題などについて批判的に再考してみる。	事前学習	教科書 pp. 140～155 を読み、メディアと文化の関係を把握しておく。
		事後学習	既習内容を復習し、メディアによる文化受容やメディアを使用した異文化コミュニケーション・異文化交流について理解したことをノートにまとめておく。
第 13 回	英語が使われている国や地域：文化的背景が異なる人々との共生（X 文化のポリティックス） 身近な地域の人々の現状を把握し、多文化共生や多様な文化背景をもつ人々との交流の意義について学修する。特に英語が使われている国や地域を中心に扱いながら考える。また共通語としての英語をコミュニケーションツールとした多文化共生についてクラス内外の留学生とグループ討議を実施し考えを深める。	事前学習	教科書 pp. 156～175 を読み、文化の多様性について改めて考えておく。
		事後学習	既習内容を通して身近な地域の人々の現状を把握し、多文化共生や多様な文化背景をもつ人々との交流の意義についてクラス内外での実際の異文化交流体験にも留意しながら復習しておく。
第 14 回	異文化コミュニケーションの今日的課題（XI グローバリゼーションの行方） 異文化コミュニケーションの今日的課題について考える。特にグローバル化がもたらす画一化と拡散化の現状と異文化コミュニケーションの課題について再考する。	事前学習	教科書 pp. 176～189 を読み、グローバル化が進行する現代世界における異文化理解の課題について自分なりに考えておく。
		事後学習	既習内容を復習し、異文化理解に必要な要因について実際の異文化交流の体験から学んだことを含め全体的に整理しておく。
第 15 回	総括、まとめテスト 2 グローバル化の進行する現代の異文化コミュニケーションの現状・課題・意義と異文化理解に必要な要因について教科書の既習内容に留意しながら総括する。	事前学習	既習内容について総復習し、不明な点がないか確認しておく。
		事後学習	ノートや資料を整理し、学んだことを総括し振り返りができるようにまとめておく。